時事新報

社告（賣捌所ヨリ報新御購讀ノ諸君ノ本社ニ直接ニ本社ニ御注文ノ分ニ限リ右樣ノ不都合ニハ無之事ト率存候此段辨明廣告致候也

時事新報廣告料（前金）

○二日以上六日間以内一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金八錢、十一行ヨリ三十行迄一行ニ付一日分金七錢、三十一行ヨリ五十行迄一行ニ付一日分金六錢五厘、五十一行以上何行ニテモ一行ニ付一日分金六錢、但シ六日間以上為載ノ分ハ定則一割引、十五日間以上同斷同一割五分引、三十日間以上同斷同二割引

○一日限廣告一行ヨリ十行迄一行ニ付一日分金十錢、十一行ヨリ三十行迄同金九錢、三十一行ヨリ五十行迄同金八錢、五十一行以上同金七錢（注意）本社廣告料一日限リ掲載ノ分改正シ三月一日ヨリ右ノ通計算致候但二日間以上掲載ノ分ハ從前ト少シモ異ナルコトナシ

公報

裁判所

○司法省達丁第八號

自今輕罪ニ係ル控訴事件ニ付テハ明治十四年（十二月）當省丁第三十四號達（第五號表式アリ）ニ據リ既未決事件表ヲ調成差出スベキ儀ト心得セシ但輕罪裁判所ニ於テ受ケタル控訴事件モ同樣ニ該表ヲ調成シ他ノ事件表ト共ニ二箇月毎ニ取纏メ差出スベシ此旨相達候事

明治十八年二月二十六日　司法卿伯爵山田顯義

○東京府告示乙第四十四號

麻布區鳥居坂下地島村地島他數止條樹費爲指却本月十日ヨリ向三十年間同區ニ於テ入港ノ船舶ヨリ左ノ通港費取立ツベキ筈ニ候條此旨告示候事

明治十八年二月二十六日　東京府知事芳川顯正

一汽船

一日本港ニ十反帆以下船舶　帆一反ニ付金五錢

一同十一反以上廿反帆以下船舶　帆一反ニ付金二錢五厘

一同廿一反帆以上　帆一反ニ付金二錢

一無動力形船舶　一艘ニ付金五錢

但港費毎五日ヲ過ルトキハ更ニ本項ノ通五日毎ニ取立ルモノトス

時事新報

明治十八年二月廿七日（西暦一千八百八十五年）

第九百三號　金曜日

驛逓局認可

日曜日休刊

東洋ノ禮西洋ノ理

豊浦生

歐羅巴ノ社會ハ理窟ノ世ノ中ニシテ東洋諸國支那日本抔ハ全体ニ禮儀ノ世ノ中ナリ歐羅巴ノ世界ニモ理窟ヲ解セザル無智ノ者アリ東洋ノ社會禮儀ヲ知ラザル士君子ニモ乏シカラズト雖ドモ其全体ノ形ニハ見ハレタル所ヨリ之ヲ觀レバ全体ニ歐羅巴ハ道理亞細亞ハ禮儀ノ國ナリト云フモ太ダシキ過言ニハアラザレバ歐羅巴ノ社會ハ事々物々理窟ヲ以テ其事物ノ基本トシテ理窟ニ適ハザルモノハ何事ニマレ是ヲ無用無益ナリトシテ廢ス或ハ其ニ無用無益ノ物アラバ强テ謂レナキ道理ヲ附會シテ無理ニ其物ヲ理窟ガマシク形容スルコトアリ反之東洋諸國ニ在テハ事々物々禮儀ヲ以テ其事物ノ基本トナシ苟モ禮儀ニ反スルモノハ假令ヒ其物ニ如何ナル理窟アルモ之ヲ有害不德ナリトシテ擯斥シ其際更ニ理窟ヲ挾ミテナシ曾ニ理窟ヲ挾マザルノミナラズ却テ理窟ヲ挾ミテ以テ無禮トスル者ノ如シ日常ノ交際ニ於テモ西洋ノ人ハ可成言語擧動ノ禮儀ヲ除キ他人ヲ尊問スルニモ先ヅ其用向ヲ糺マセ然シテ後氣候等ノ雜談ニ及ブナリ我日本ニテハ然ラズ他人ノ家ニ至レバ先ヅ以テ一家内ノ御機嫌ヲ伺ヒ氣候ノ挨拶ヨリ米作ノ豐凶物價ノ高下ニ至リ然シテ後漸ク其尊問ノ用向ニ取掛ルナリ其太ダシキニ至テハ金談ノ爲メニ無行ニ行キ曾氣候ノ挨拶ヲナス者アリ若シモ當地ニ於テ如此事ヲ爲シ樣ノ朋友ノ承諾ヲ得ズシテ直リニ其勘定ヲ濟マス時ハ大ダシキ無禮ニシテ却テ朋友ノ爲メニ嚴責サルヽナリ故ニ緩メ其朋友ニ向ヒ此勘定ハ拙者之ヲ引受ケ仕拂フベキ者ナリ一方ハ金ヲ拂フテ以テ禮トナシ一方ハ之ヲ拂ハザルヲ以テ理トナス東西ノ風俗霄泥ノ差違アリト云フベシ其執レカ禮アリ義レカ禮ナキヤハ小生ノ知ラザル所ナレドモ其理窟ノ一點ニ至テハ東ノ西ニ及ハザルモノヽ如シ並ベ他人ノ飲食シタル酒ノ代價ヲ自ラ支拂スベキ理由モナク又自カラ食シタル物ヲ他人ニ拂ハシムルノ理由モナシ我其シタル物ノ價ヲ他人ノ拂ハヾトスルハ我蓋中ニ其書者ヲ女房ニシテハ家ノ面目先祖ニ對シテ濟マズ抔ト親類中ガ騒ニ興存ヲ唱ヘシカバ男モ不得止其態ヲ詳細ニ世面ニ認メ破綻ノ樣子先方ヘ申達ダル處其女ハ直ニ之ヲ酌取シテ直ニ其金五錢ヲ拂ハシメ法廷ニ持出シタリ扨テ法廷ニテハ原告被告ノ兩人ハ一方ハ書ノ拂ハヾ理ヲ輕ク取ルベキ

ノ理窟ヲ以テ相當トスベキヤト裁判官ガ參考人ニ問ヒシニ參考人ハ一同之ニ答テ其貧一萬弗ヲ以テ相當トスト云ヒシカバ裁判官ハ心中竊ニ驚リ法外ナル價金ナリトハ思ヒシカドモ已ニ參考人ノ極メ以上ハ復却何トモスベカラズ依テ其息子殿ハ其貧一萬弗即チ五萬圓ノ價金ヲ取フレタリ古來此類ノ結婚違約裁判ハ誠ニ屢々ナレ共高圓ノ價金ハ此度ヲ以テ始トスト云フ日本ニテハ役者抔云ヘル者ハ假令ヒ何樣ノ事アルモ決シテ理窟ガマシキ事ヲ云ハズ事々物々道理ヲ以テ旨トスルコトナレ共西洋ニテハ然ラズ社會全般ノ仕組ハ道理ノ世ノ中ナレバ假令ヒ愛敬ヲ賣リ人情ヲ第一トスル女役者ト雖ドモ取ルベキ道理ノアルモノヲ取ラザルハ損ナリ法律ハ國民ノ權理ヲ保護スル爲メノモノナレバ其訴ヲ法廷ニ持出スモ決シテ愧ヅルコト足ラズトスル事ナリ斯ク云ヘバトテ決シテ小生ガ我日本ニモ結婚違約價金ノ訴訟ヲ盛ニスベシト云フニハアラズ兎ニ角ニ日本人抔ハ只管禮ノ一方ヲ重ジテ物ゴトニ道理深ク西洋ノ人ハ一點ニ理窟ヲ以テ主トスルガ故ニ其所行無道慮ニ近ク道理深キ者ハ人ニ制セラレ無道慮ノ者ハ人ヲ制ス世界古今ノ實相ナリ近クハ聽者諸君ノ一身上ニ就テ之ヲ考フルモ果シテ其然ル所以ヲ發見スル所アルベシ禮ハ人間社會ノ大本一人ノ身ニ取テハ行ハザルベカラザル事ナレ共此國ト彼國トノ交際ニ於テ只管ニ禮ヲノミ重ジ徒ニ道慮深キハ之ヲ得策ト云フベカラザル者ノ如シ日本人モ今少シ無道慮ノ氣ヲ養成シテ此無道慮ノ世ノ中ニ處シテ本事ナリ

雜報

○中央亞細亞帝　露國皇帝アレキサンドル三世陛下には來る千八百八十七年サマルカンドに行幸して現に露國の權威に服從する諸酋長の目前に於て公けに中央亞細亞皇帝の位に即かるべしとの風説ありと云ふ

◎安田三等出仕　安田農商務省三等出仕は一昨廿五日獨逸驛邦バウアリア國ノーレンバルク府金象背銅製品萬國博覽會事務官長として同國へ差遣さるゝ旨仰渡されたり

○勤務並兼勤　長與文部省御用掛外四氏は去る十八日文部省に於て左の通仰付けらるたり

學務一局勤務被仰付候事　文部省御用掛　長與專齋

學務一局勤務被仰付候事　文部省御用掛　寺田勇吉

學務一局兼勤被仰付候事　東京職工學校教諭　宮崎逸正

學務一局兼勤被仰付候事　文部省權少書記官　中川元

内閣局兼勤被仰付候事　學務二局兼勤加藤弘之

錦鑑局兼勤被仰付候事　東京女子師範學校教諭　中川謙次郎

○牧野陸氏　長に上京せる牧野大藏砲兵工廠提理は一昨廿五日出發歸阪しさり

○被仰付　山崎海軍中佐は艦隊演習中小艦隊參謀長として演武海軍中佐と横須賀在勤並に任ぜられ主船廠出勤と新井海軍少佐は艦隊演習中小艦隊旗艦艦隊乘組を伊東海軍少佐は艦隊演習中小艦隊司令官參謀官と是本海軍少佐は艦隊演習中小艦隊旗艦時乘組を厳島海軍少佐と艦隊演習中小艦隊參謀官兼官附從員を金永海軍機關少佐は艦隊演習中小艦隊機關長を清林海軍大尉少佐と艦隊演習中小艦隊水雷隊長を高橋海軍少佐は艦隊演習中小艦隊水雷隊長を各被仰付候事

○横瀬文部氏　横瀬文部氏は去る十八日文部省御用掛を辭し其後任は未だ決せざるが目下の處にては文部省主秘書官